

人権だより

〈題字〉高松市長 大西 秀人

発行 2025 (令和 7) 年 2 月
事務局 高松市番町一丁目 8 番 15 号
高松市人権・男女共同参画推進課内
TEL (087) 839-2292

第11号

人権尊重都市たかまつ市民会議
www.jinkensoncho-takamatsu.com

人権尊重都市たかまつ市民会議 検索



高松市立三溪小学校四年 満園峻也さん
みつぞの しゅんや



高松市立協和中学校三年 光宗愛莉さん
みつむね あいり



本年度の活動

2024年

- 5月8日 役員会
- 5月31日 総会
- 9月30日 人権作品選定会(ポスター・書写)
- 10月3日 人権作品選定会(作文)
- 10月25日 第39回
香川県人権・同和教育研究大会
- 11月30日 第75回
~12月1日 全国人権・同和教育研究大会
(熊本県・鹿児島県・福岡県)
- 11月28日 部落解放第40回香川県講演会
- 12月5日 人権作品展 (IKODE瓦町)
~9日
- 12月25日 人権・同和教育研修会



2025年

- 1月19日 スマイルフェスティバルinたかまつ
(サンポートホール高松)
- 2月28日 人権だより発行

二〇二四年度につきまして、本市民会議の啓発活動の中心的な取組の一つである「スマイルフェスティバルinたかまつ2024」は、「リス・スタート〜セカンドチャンスをめざして〜」と題し、山口達也氏講演会をはじめ、児童による人権作文の朗読、人権メッセージの発表、車いす体験、人権に関するパネル・作品展示、人権に関する物品販売など、多彩な内容で開催することができました。

また、「人権作品展」では、子どもたちや市民の方々から思いの詰まった作品が数多く寄せられ、前年度よりも多くの方にご覧いただくことができ、市民の方々の人権意識の高揚がより一層図られたものと、うれしく思っております。

近年、同和問題をはじめとしたさまざまな人権問題、中でも情報化等の進展に伴うインターネット上での差別的な表現の書き込みやプライバシーの侵害など、新たな形での人権侵害が多数発生するようになり、人権問題はますます多様化・複雑化しております。このような行為は、重大な人権侵害であり許されるものではなく、本市民会議も自治体や地域と一体となって差別解消に努めているところでございます。

今後におきましても、「人権尊重都市たかまつ」の実現をめざして、教育機関や各種団体、行政などと連携・協力しながら、全ての差別をなくし、人権を尊重する市民意識の広がりや人権文化の普及に努めてまいりたいと考えておりますので、市民の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

会長挨拶

人権尊重都市たかまつ市民会議

会長 角田

朝則

つのだ

ともりの

SNSは仮想空間ではない

高松市立木太中学校 二年 田井 景都さん

今年の夏、パリオリンピックが開催された。スポーツ観戦が好きな私にとって、毎日さまざまな競技が見られることが幸せだった。メダルを獲得した選手が次々にメディアで取り上げられる中で、ある見出しが目にとまった。

「パリ五輪出場選手に、誹謗中傷が殺到」

慌ててSNSを開くと、批判的なコメントが並んでいた。スクロールしてもコメントは次々にあふれて、過激なものも少なくなかった。これが四年に一度のオリンピックに向けて血のにじむようなトレーニングを積んできた選手たちに向けて言葉なのか？中にはいさめるようなコメントもあったが、すぐに悪意のあるものに覆い隠され、魚の大群が餌を見つけたかのように、一点に向かって言葉の刃が襲いかかっている。

ただただ気分が重くなった。翌日、試合を観ようという気持ちにはなれなかった。純粹に応援したいだけに、心から楽しめる気がしなかったからだ。

二〇二二年、大阪に住む男子中学生が同級生からのいじめによって自殺するという事件があった。SNSによる悪質な誹謗中傷に苦しめられ、何度も被害を訴えたにもかかわらず、学校は対応しなかったそうだ。当時、自分とさほど年の変わらない人が亡くなったことに心を痛め、同時にSNSでの誹謗中傷的は、もしかすると自分だったかもしれないと恐怖を感じた。恐る恐る調べ直してみると、もともと気分が重くなった。悪質な言葉がSNS上に残っていた。

被害者が亡くなってからも開き直り続けた加害者たち。直接言っていないだけでしたと錯覚するのだろうか。スマホ越しだから、攻撃された人がどんな顔でコメントを見ているのか想像もできないのだろうか。たかが言葉だと開き直って他人を傷つけるのは、本当に悪質だ。賛同者がいれば更に調子に乗る。まるで自分たちが世界の基準であるかのように。

誹謗中傷をする人間は顔も名前もさらされないから分らないという浅はかな考え方で相手を傷つける。だが間違えてはいけない。例えばそれは、大勢の人が歩く道の真ん中で叫んでいるのと同じことなのだ。SNSは仮想の空間ではない。現実世界なのだ。相手が有名人なら多少の誹謗中傷は許される、一般人なら問題視されずにすむ、とはならない。どちらも生身の人間であって、ストレス発散のためのおもちゃではない。もし「自分の意見を書き込んでいただけ。」と行為を正当化するのであれば、まずは自分の意見が求められているのかを見極めるべきだ。

テレビの向こうでは、すべての選手が競技を終え、すがすがしい笑顔でスタッド・ド・フランスをゆつくりと行進している。それを見て、選手一人ひとりが人生をかけた瞬間を純粹に楽しみ、その雄姿を称えられる人間でいたいと思った。

今、このしゅん間からできること

高松市立一宮小学校 六年 桑内 愛咲さん

私は、夏休みに国立リョウ養所 大島青松園を訪れた。学校で、ハンセン病について学習し、もともと学びたいと思ったからだ。ハンセン病に感染すると、皮ふや目等に障がいを引き起こすことがあるそうだ。この病気の事がよく分かっていたいなかった時代には、おそろしい伝染病であると誤解され、長い間、かん者さんやその家族は差別を受け、苦しんできたそうだ。大島青松園へは、高松港から船に乗り、連れて行ってもらった。風の強い暑い日で、太陽の光がふりそそぎ、海がキラキラと輝いていた。大島を歩き、ハンセン病の回復者の方の思いを知った。病気の感染が分かるとらい予防法という法律のもと、家の中を雪が降ったかのように真っ白に消毒され、かん者をかくりするというこわい政策が進められた。その事がより人々をこわがらせ、差別を生んでしまった。病気が治る薬が開発されたのに、この政策は、そのまま長く続いてしまった。緑でいっぱいの子供の島の中には、納骨堂もあった。たくさんの方が、ふるさとに帰ることができずに、命を終えている事を知った。名前のない骨つばは、もしだれかに見られたときに、残された家族が差別にあつてはいけないという、最後の思いやりなのだ。知った。病気になるにたてなる人などいない。私は、胸がはりさけそうになった。夏休みに入る直前に体調が悪くなった私は、楽しみにしていた事ができなくなつた。金管バンド部のコンクールが近く、練習ができない不安から、あせつていた。休んでいる一週間がとても長く感じた。元通りに演奏ができるようになるまで時間がかかり、悔しくて落ち込んだりもした。でも、そんな気持ちを乗り越えることができたのは、優しく声をかけてくれた友だちがいたからだ。不安で自分の力ではどうする事もできない時、周りの人からの思いやりの心で体も心も元氣になった。

大島からの帰りの船に乗る時の私は、行く時の気持ちとちがつていた。このきれいな瀬戸内海は、かん者さんの目には、どんな景色に見えていたのだろう。私は、たった一週間で不安になったのに、かん者さんは、長い長い時間どれほど苦しかったことだろう。ハンセン病回復者の方の思いを知り、コロナを経験した私ができる事は、何だろうと考えた。それは、同じ過ちをくり返してはいけないという事だ。人は何か分からないものに不安になつてしまう。私にも同じような経験がある。だからまず、正しく知ることが大切だと思う。そして、相手の立場に立って思いやりの心をもつようにする。自分にできることをこれからも考え続ける必要がある。差別の無い優しさであふれる未来を自分が創つていきたい。今までは、未来は、私が大人にならずと先の事だと考えていた。しかし、そうじゃなかった。未来は今から。私たちから！

2024年度 人権作品 書写部門

平和

香川県立高松支援学校 中学部 3年
いしい ようこ
石井 瑤子さん

高小 二年 そね 大貴
さあ たいき
ついで

高松市立高松第一小学校 2年
そね たいき
曾根 大貴さん

心
こころ
きた はる
たはる

香川県立高松支援学校 小学部 3年
きた はる
来田 晴さん

木太 北小 三年 鳥 谷 海
や かい
思 い

高松市立木太北部小学校 3年
とりたに かい
鳥谷 海さん

栗林小 五年 橋本 茉心
友 まこ
情

高松市立栗林小学校 5年
はしもと まこ
橋本 茉心さん

木太北部 小六年 大野 心遥
尊 ことほ
生 ことほ
命

高松市立木太北部小学校 6年
おおの こはる
大野 心遥さん

龍雲中 一 年 秋山 凛衣
人 あり
権 凛衣

高松市立龍雲中学校 1年
あきやま りい
秋山 凛衣さん

玉藻中 二年 河野 真依
自 まい
由 真依
平 かい
等

高松市立玉藻中学校 2年
こうの まい
河野 真依さん

高松南高 一年 竹内 彩愛
人 いろは
権 いろは
意 いろは
識 いろは
を いろは
持 いろは
つ

竹内 彩愛

香川県立高松南高等学校 1年
たけうち あやね
竹内 彩愛さん

南高 三年 西村 羽衣
豊 かな
かな かな
人 かな
権 かな
感 かな
覚 かな

西村 羽衣

香川県立高松南高等学校 3年
にしむら うい
西村 羽衣さん

桜町中 三年 土井 千紘
人 ちひろ
権 千紘

高松市立桜町中学校 3年
どい ちひろ
土井 千紘さん

高松高 一年 女賀 結菜
博 ゆい
愛 結菜
精 ゆい
神 結菜

香川県立高松高等学校 1年
めが ゆい
女賀 結菜さん

2024年度 人権作品 ポスター部門



高松市浅野こども園 4歳児
くみ くみ
ほし1組・2組



香川県立香川中部支援学校 高等部1年
やすまつ たいき
安松 大輝さん



高松市立花園小学校 3年
いたこ えま
板子 恵真さん



高松市立太田中学校 3年
ほんだ りこ
本多 莉子さん



英明高等学校 1年
かしわばら ゆきの
柏原 千乃さん



高松市立国分寺北部小学校 2年
うえた あず
植田 愛梓さん



高松市立檀紙小学校 6年
こうざい るい
香西 琉衣さん

人権・同和教育研修会

とき 二〇二四年 七月二十四日(水)・七月二十九日(月)・

八月十九日(月)・十二月二十五日(水)

ところ 国立療養所大島青松園

昨年度に引き続き、大島青松園での現地研修を行いました。

大島青松園は全国に十三あるハンセン病回復者が暮らす国立療養所の一つです。庵治の沖合にある砂浜と松の美しい大島は、高松港から船で片道二十分ほどで行くことができます。

研修では、まず入所者の方からのお話を聞かさせていただきました。強制隔離などの体験談から差別の厳しさを改めて深く知ることができました。今後感染症に関する差別をおこさないためにという視点でもお話をしてくださいました。

社会交流会館の見学では、展示されている資料を見学しながら、学芸員の方から詳しい解説をお聞きすることができました。島内のフィールドワークでは、納骨堂・風の舞のモニュメントなどをめぐりながら、職員の方がお話をしてくださいました。当時の島内での生活について学ぶことができ、ハンセン病について正しく知ることができました。

実際に現地に行き、お話を聞くという体験は、過去の差別の現実から深く学び、正しい知識を身につけることで、差別をなくし、今後新たな差別を生まないための力をつけることができると感じました。これから人権を守るための行動にも移していきたいと思います。



人権作品展

とき 二〇二四年 十二月五日(木)・十二月九日(月)

ところ IKODE瓦町(瓦町FLAG八階)

幼児児童生徒の皆様からポスター・書写・作文を、市民の方々から人権メッセージを募集し、多くのご応募をいただき、作品展を盛大に開催することができました。会場である瓦町FLAG八階の市民交流プラザIKODE瓦町に展示し、非常に多くの方々にご来場いただきました。展示した作品の一部はこの「人権だより」に掲載しております。

ご応募してくださった方々には、その作品を制作する過程において、ご来場いただいた方々には、その作品を鑑賞することで、「人権について考えていただけたと思います。皆様のお力で、高松市が「人権尊重都市」に近づいていけると信じ、今後も活動してまいります。



スマイルフェスティバル in たかまつ2024

～広げよう!つなげよう!人権の輪!～を開催しました

とき 二〇二五年 一月十九日(日)
ところ サポートホール 高松 大ホール

人権尊重都市たかまつ市民会議主催の、人権啓発イベント「スマイルフェスティバル in たかまつ2024」を広げよう!つなげよう!人権の輪!を開催しました。今年度は、サポートホールでステージイベントとロビーイベントを行いました。

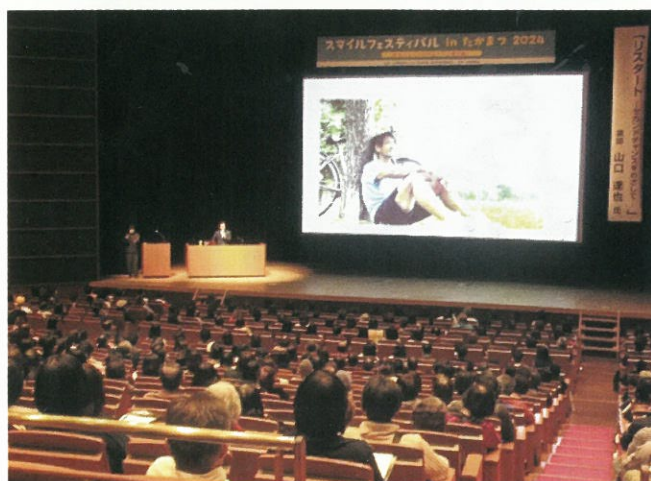
ステージイベントでは、人権作品展に応募して下さった人権メッセージの紹介が行われました。人権について考えるきっかけとなるものや、普段から気に留めておきたいことなど、いろいろな気づきがありました。

続いて、人権作品展に出品された作文の中から選定された、小学校五年生の児童が作文を朗読してくださいました。吃音症について知ることができ、まわりの理解も大切だということに気づかされました。

講演会では、「リスタート〜セカンドチャンスをめざして〜」という演題で、山口達也さんがお話しくださいました。ご自身のアルコール依存症などの体験談から、SNSなどで、失敗した人を過度にたたき社会的風潮についてや、寛容な社会の大切さについてお話しくださいました。会場からの質問にもお答えいただき、和やかなムードであったという間の九〇分間でした。

ロビーイベントでは、刑務所作業製品展示販売会・香川県社会就労センター協議会の販売ブースや、段差やスロープを車いすに乗って体験する車いす体験、パネル展示による人権啓発コーナーが行われ、たくさんの方ににぎわいました。

このイベントを通して、人権が尊重される寛容な社会づくりのために、一人ひとりが人権についてできることを実践していくことが大切だと思いました。



スマイルフェスティバル

in たかまつ 2024 広げよう!つなげよう!人権の輪!

2025年 1月19日(日) サポートホール 高松 大ホール
13:30 ~ 15:30 (開場 12:30) (高松市サポート2番1号)

入場無料!

ステージイベント 13:30 ~

●人権メッセージの発表・人権作文の朗読

●講演会
講師

山口達也 氏
「リスタート
〜セカンドチャンスをめざして〜」

定員: 800名

※先着順・要事前申込・自由席

座席数に限りがあるため、事前申込みをお願いします。詳しくは裏面をご覧ください。

ロビーイベント 12:30 ~

- 刑務所作業製品展示販売会 (公財) 矯正協会、高松刑務所
- 香川県社会就労センター協議会 障がい者施設による小物等の販売
- 人権啓発コーナー (幼児・児童・生徒による人権作品展示 ほか)
- 車いす体験

プロフィール

株式会社山口達也 代表取締役
1972年1月生まれ
2018年より、近江フェスティバル実行委員、
2022年「防犯情報防止インストラクター資格」、
「防犯情報防止アドバイザー資格」、
「メンタルヘルスケアカウンセラー資格」を取得。
2023年3月「株式会社山口達也」を開設し、
自分の経験を活かした「アルコール依存症」、「依存症全般」
[50歳からの再チャレンジ] 等の講演活動を実施
又「全県向け危機管理セミナー」も実施する

主催/人権尊重都市たかまつ市民会議 高松市教育委員会 後援/四国新聞社

お問い合わせ/人権尊重都市たかまつ市民会議事務局 (高松市人権・男女共同参画推進課) TEL.087-839-2292 高松市教育委員会 (人権教育課) TEL.087-839-2640